

Course number		U-LAS55 10001 SB31					
Course title (and course title in English)	多文化教養演習：見・聞・知@京都「受容から発信へ」			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Liberal Arts and Sciences Professor,KAWAI JUNKO Institute for Liberal Arts and Sciences Associate Professor,HAN LIYOU Institute for Liberal Arts and Sciences Program-Specific Associate Professor,WAKAMATSU FUMITAKA Institute for Liberal Arts and Sciences Senior Lecturer,KAWACHI AYAKA		
	Seminar for Multicultural Studies : Watch, Listen and Learn @ Kyoto - From Accepting Various Cultures to Transmitting Your Own.						
Group	Career Development			Field(Classification)			
Language of instruction	Japanese and English			Old group			Number of credits 2
Hours	30	Class style	seminar (Face-to-face course)		Year/semesters	2025・Intensive, First semester	
Days and periods	Intensive TBD		Target year	All students	Eligible students	For all majors	
[Overview and purpose of the course]							
<p>本授業は、京都大学が実施する「多文化共学短期[受入れ]留学プログラム（通称：京都サマープログラム）」を核とする本学学生対象の授業である。</p> <p>本演習の目的は、ここ京都大学において、世界中から多様な学生が集う環境の下、本学の学風および先端研究に触れること、日本社会の課題、伝統、文化、経済等の理解を深めると共に様々なアプローチを学ぶこと、そして、これにより今後のさらなる国際的活動への礎を築くことである。</p> <p>具体的には、本学大学間学生交流協定校・学術交流協定校から海外学生を受入れ、彼らと共に（１）学術講義、（２）日本語教授実習、（３）本学学生との共同学習・討論会、（４）実地研修を行う。</p> <p>特徴は４点ある。（a）多様性の重視：東アジア、ASEAN、欧州、アフリカ、北米の20を超える大学から、専門を問わず海外学生を受入れ、本学学生との共学の間を提供する。これほど多様な背景を持つ学生が一堂に会する短期プログラムは、世界に類を見ない。（b）「対話」を通じたアプローチ：教員 - 学生間、学生 - 学生間の「対話」を通じ、多様な学問領域を扱う。特に、対象を捉え、問題に取り組むアプローチの習得に重点を置く。議論の場では、様々な意見を受止め、展開する。（c）地域に根差したプログラム：伝統と創造が共存する土地柄を生かし、文化体験や企業訪問を行う。（d）学生主体：教員の監督下で企画・運営に本学学生が携わり、運営力・リーダーシップを涵養する。</p>							
[Course objectives]							
1) 各国・地域の文化および社会状況、さらには日本文化、日本社会の状況についてのより深い理解。 2) 理系トピックを含む、学際的アプローチへの関心と理解。 3) 多様な文化的背景を持つ学生が共に学ぶことへの関心。意見交換や合意形成の技能。 4) 日本語教授の経験、それを通しての日本の文化・社会への理解。 5) 学外研修・文化体験を通して、実体験に基づく日本文化、社会状況、日本的組織の特徴等への理解。 6) 研究室訪問による最先端の研究動向に触れることによる、学生個々の進路の選択肢の拡大。 7) 討論会準備、学外研修の企画、文化体験の計画を行うことによる、企画力、リーダーシップの涵養。							
<div style="text-align: right;">Continue to 多文化教養演習：見・聞・知@京都「受容から発信へ」(2)</div>							

[Course schedule and contents]

当プログラムには別途申し込みをする必要がある。

募集要項・時間割・講義一覧の準備が整い次第、KULASIS上などで案内する。

プログラム内容

1. 7月中旬～8月上旬：京都サマープログラム（於、京都大学）

（１）学術講義

学際的なプログラムを象徴する講義群を海外学生と共に学ぶ。

以下は2024年度例：

提供言語（English/Japanese）、キーワード、「講義タイトル」、（講師氏名）

English 日本近代外交史「幕末の外交儀礼から、日本の近代外交の幕開けを考える その5」（佐野 真由子）

English 政治経済学「日本経済「失われた30年」の政治経済」（関山 健）

Japanese 社会言語学「日本語の社会言語学的諸相」（家本 太郎）

Japanese 日本の教育「学校教育にみる日本文化の諸相」（河合 淳子）

English 食糧問題「環境・動物福祉を考慮した持続的食料生産」（近藤 直）

English 経営学「イノベーションとアントレプレナーシップ」（木谷 哲夫）

English 文化政治学「日本の捕鯨：食と保護を巡る文化政治学」（若松 文貴）

English 動物研究学「「ヒトとは何か」を探る動物研究」（山本 真也）

English 細胞生物学「なぜ私たちの寿命は有限なのか 染色体テロメアからの考察」（石川 冬木）

English 日本古典文学「日本古典文学に見る日本人の美意識」（湯川 志貴子）

English 仏教学「日本仏教の過去、現在、未来」（熊谷 誠慈/亀山 隆彦）

English ジェンダー「20世紀後半の日本における女性像の変遷」（落合 恵美子）

日本の社会課題を扱う講義、日本の文化や歴史に関する講義、本学独特の学問分野に触れつつ学際的な視点が得られる講義で構成される。専門外の内容やアプローチに触れることで専門における学修・研究の刺激となり得る内容となっている。

（２）日本語教授準備及び実習

日本語教授に関する準備講座を受講後、海外学生が学ぶ日本語学習科目において、日本語教授実習を行う。これにより、本学学生は、言語教育方法のスキルに触れ、その習得への端緒となる経験を積むとともに、自分自身が身につけてきた言語を客観的に捉え、日本文化や日本社会への理解を深める。

（３）共同学習・討論会・最終発表

参加学生は、海外学生との共同学習を通して準備を行い、様々なテーマについて討論会を行う。最終発表は、ILASサブプログラムでは海外学生による個人発表に対する質疑を英語で行う。KUASUサブプログラムでは本学学生と留学生合同で編成されたグループにより日本語で行う。

（４）実地研修・文化体験

地元企業や各種組織の協力を得て、実体験に基づいて（１）で学んだ点を確認し、日本文化、社会状況、日本的組織の特徴等への理解を深める。過去の実施例は、西陣織、京菓子（伝統の保全とイノベーション）、滋賀県立大学による研修（湖水環境、琵琶湖湖上実習）などがある。

本学学生向けスケジュール（上記 本学学生向け受講申込みを確認のこと。）

・本学学生向けオリエンテーション 6月下旬～7月上旬に開催

（内、1回出席必須）

・日本語教授準備講座 ～ （内、1回出席必須） 7月上旬に開催

京都サマープログラム 2025年7月24日～8月8日

7月24日：キックオフ集会（試験期間と重なるため、自由参加）

7月25日：海外学生向けオリエンテーション、キャンパスツアー（試験期間と重なるため、自由参加）

7月26日：京大紹介、学術講義、日本語教授実習

7月27日：学生企画

7月28日：主として海外学生を対象とした学外研修（終日）（試験期間と重なるため、自由参加）

7月29日：議論・発表準備、日本語教授実習、日本語で話そう、研究室訪問（試験期間と重なるため、自由参加）

7月30日：議論・発表準備、日本語教授実習、学術講義、日本語で話そう

7月31日：議論・発表準備、学術講義、日本語で話そう、研究室訪問

8月1日：議論・発表準備、日本語教授実習、学術講義、研究室訪問

8月2日：議論・発表準備、学術講義、日本語教授実習

8月3日：学生企画

8月4日：議論・発表準備、学術講義、日本語教授実習予備日

8月5日：議論・発表準備、学術講義、日本語教授実習予備日

8月6日：学外研修（終日）

8月7日：日本語で話そう、発表準備、討論会（必修）

8月8日：発表準備、最終発表会（必修）、修了式

2．最終レポート提出

[Course requirements]

全学共通科目「日本語・日本文化演習」を受講した上での参加を推奨する。

[Evaluation methods and policy]

出席・参加態度30%、小レポート10%（日本語教授準備講座・実習又は学外研修・文化体験等）、討論会への貢献30%、最終レポート30%。

必修活動を含む、合計40時間以上の参加者を評価対象とする。必修活動とは、本学学生向けオリエンテーション2 sessionの内1 session（1時間）、日本語教授準備講座3 sessionの内1 session(1時間)、学術講義10コマの内6コマ、大学紹介2コマの内1コマ、討論会（10日目）、最終発表会（11日目）である。必修活動の多くは、土曜日並びに試験期間後に実施される。ただし、本プログラムの各種活動がフィードバック期間と重なっていることに留意し、受講計画を立てること。

[Textbooks]

プログラム講義内、オリエンテーション等で指示する。

[References, etc.]

（References, etc.）

プログラム講義内、オリエンテーション等で指示する。

多文化教養演習 : 見・聞・知@京都「受容から発信へ」(4)

(Related URL)

<https://forms.gle/c66xtnUVe7PPc6M76>(本学学生向け受講申込み「京都サマープログラム2025」 - Google フォーム (募集開始後、募集要項・時間割・講義一覧は上記google formより閲覧可能となる。))

<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/summer-spring-program/>(京都サマープログラム ホームページ)

[Study outside of class (preparation and review)]

受講する講義で指定される文献を読んでおくこと。

[Other information (office hours, etc.)]

- ・ 必要な教科書、保険、費用等についてはオリエンテーションで説明します。
- ・ 本科目は採点報告日以降に実施するため成績報告が遅れます。

[Essential courses]